

外為マンズレビューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2017/06/05

市場のムードがカギを握る

通貨ペア	基調		ページ数
<a href="#">豪ドル/円</a>	➡	「外部要因」頼みの展開に 予想レンジ: 80.000 ~ 85.000円	2 - 3
<a href="#">NZドル/円</a>	➡	基準線が視野に 予想レンジ: 77.000 ~ 81.500円	4 - 5
<a href="#">ランド/円</a>	➡	景気対策の利下げに舵を切るか 予想レンジ: 8.100 ~ 9.000円	6 - 7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします

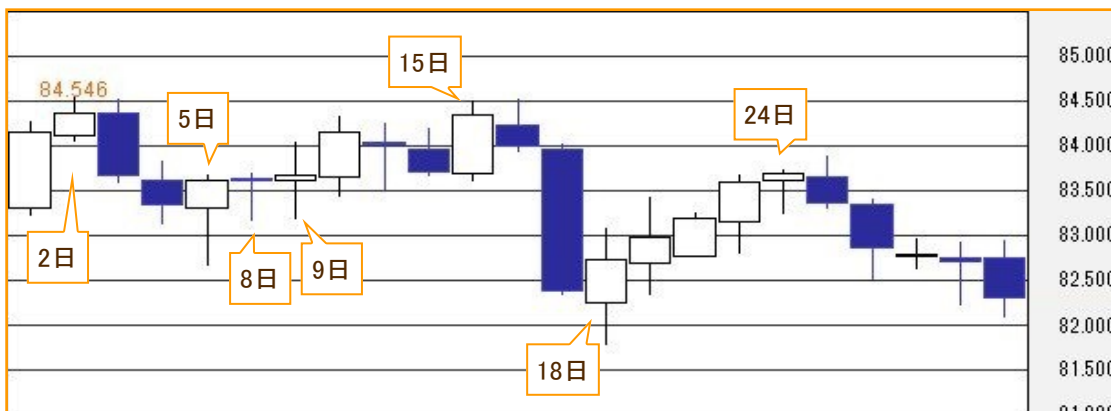


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

豪ドル/円 5月の推移

5月の豪ドル/円は、81.780~84.546円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約1.4%下落(豪ドル安・円高)した。上旬こそ84円台半ばまで上昇する場面もあったが、中旬にはトランプ米大統領のロシア関連疑惑が持ち上がった事などから81円台へと反落。その後、やや持ち直したものの、北朝鮮のミサイル発射が続いた事や、英・伊・ギリシャを中心に欧州で政治絡みのリスクが意識された事もあって下旬には再び下落圧力がかかった。なお、国際商品市場において豪州の主要輸出品である鉄鉱石(大連取引所)が、中国の需要減少観測などを背景に約半年ぶりの安値に沈んだ事も豪ドルの上値を抑えた。



四本値	
OPEN	83.317
HIGH	84.546
LOW	81.780
CLOSE	82.306

2日	豪準備銀行(RBA)は政策金利(1.50%)の据え置きを発表。声明で「豪経済見通しはほとんど変化しておらず、成長率は今後数年で緩やかに上昇し、3%を若干上回る水準に達すると予想」「経済が勢いを増すにつれて基調インフレ率はさらに緩やかに上昇する見込み」などとした上で「金融政策スタンスを維持することが、持続可能な経済成長およびインフレ目標の達成と整合的と判断」とした。
5日	RBAは四半期金融政策報告を公表。2018年半ばまでの経済成長率見通しを2.75-3.75%と2月時点(2.50-3.50%)から小幅に引き上げた。また、インフレ見通しについては17年半ばから18年末まで1.50-2.50%とほぼ据え置いた。また、「豪ドルの上昇は、経済の移行を複雑にする可能性が高い」「賃金上昇率は、さらに低下する可能性は低いが、低迷する懸念」「家計収入は低迷する見通しで、将来的な消費へ悪影響」などとする見解を示した。
8日	豪3月住宅建設許可件数が前月比-13.4%と市場予想(-4.0%)以上に減少した事を受けて一時豪ドル売りが強まったが、仏大統領選の結果を好感して日経平均株価が年初来高値を更新して上昇する中、豪ドル/円の下値は堅かった。なお、中国4月貿易収支は380.5億ドルの黒字となり、市場予想(352.0億ドルの黒字)を上回ったが、輸出が前年比+8.0%、輸入が同+11.9%といずれも予想(+11.3%、+18.0%)を下回ったため、豪ドル買い材料にはならなかった。
9日	豪3月小売売上高が前月比-0.1%と予想(+0.3%)に反して減少した事を受けて豪ドル売りが強まった。その後は欧州株の上昇などを背景に買い戻しの動きも見られたが、クローズ間際に「北朝鮮が6回目の核実験を実施へ」と報じられた事を受けて再び反落した。なお、豪政府は2017-18年度の予算案を発表。294億豪ドルの財政赤字を見込んでいる事や、今後10年間でインフラ整備に750億豪ドルを投じる計画などが明らかとなった。
15日	中国4月鉱工業生産は前年比+6.5%と市場予想(+7.0%)を下回り、前月(+7.6%)から減速。中国4月小売売上高も前年比+10.7%と、市場予想(+10.8%)および前回(+10.9%)を下回った。これを受けて一時豪ドル売りが優勢となったが、ロシアとサウジアラビアが原油の減産延長で合意したとの報道を受けて原油価格が急騰すると、産油国通貨の上昇につれて豪ドルにも買戻しが入った。
18日	豪4月雇用統計は、失業率が5.7%、就業者数は+3.74万人と市場予想(5.9%、+0.50万人)よりも良好な結果となった。これを受けて一時豪ドル買いが強まったが、日経平均が前日比260円下落するなどリスク回避ムードが残る中で上値は伸びなかった。
24日	格付け会社ムーディーズは、債務増大と経済成長鈍化で中国の金融・財政力が悪化するとの見通しを示した上で、同国の信用格付けを「AA3」から「A1」へ1段階引き下げた(格付け見通しは「ネガティブ」から「安定的」に変更)。中国を最大の貿易相手とする豪州の悪材料と看做され、一時豪ドル売りが強まる場面があった。

## AUD/JPY

## 日経平均

OPEN	19154.03
HIGH	19998.49
LOW	19144.62
CLOSE	19650.57

## NYダウ平均

OPEN	20962.73
HIGH	21112.32
LOW	20553.45
CLOSE	21008.65

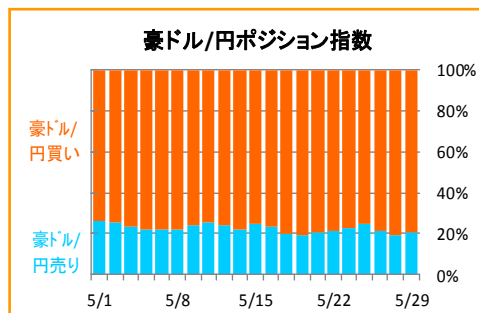
## 上海総合指数

OPEN	3147.228
HIGH	3154.781
LOW	3016.531
CLOSE	3117.178

## 豪10年債利回

OPEN	2.555%
HIGH	2.710%
LOW	2.371%
CLOSE	2.387%

## 5月のポジション動向



## 6月の豪州・中国の注目材料

- ・5月中国/財新製造業PMI(1日)
- ・4月豪小売売上高(1日)
- ・RBA政策金利発表(6日)
- ・1-3月期豪GDP(7日)
- ・5月中国貿易収支(8日)
- ・4月豪貿易収支(8日)
- ・5月中国消費者物価指数(9日)
- ・5月中国鉱工業生産(14日)
- ・豪5月雇用統計(15日)
- ・RBA議事録(20日)
- ・6月中国製造業PMI(30日)

## 6月の見通し

## 月間指標カレンダー(外部リンク)

豪準備銀行(RBA)は6日に理事会を開く予定だが、政策金利の変更はない見込みであり、中立的な金融政策スタンスも維持される公算が大きい。RBAが「次の一手」に関するヒントを示す可能性も低く、市場としては「次の一手」が利上げになるのか利下げなのかを見定めきれない状態が続くだろう。6月相場においても豪金融政策はテーマになりにくいと見られ、豪ドル相場はいわゆる「外部要因」に左右される展開が続くそう。そうした中では豪ドル/円相場にも骨太の方向感が出にくいと見られ、メイ首相率いる与党・保守党の苦戦ムードが広がり始めた8日の英総選挙や、0.25%の政策金利引き上げが濃厚な13-14日の米連邦公開市場委員会(FOMC)などの政治・経済イベントに一喜一憂する事になりそう。そのほか、トランプ米政権の「ロシアゲート」疑惑(8日にコミー前FBI長官が議会証言)や中国の景気動向にも目配りが必要だろう。

チャート面では、中長期トレンドを示す52週移動平均線が緩やかに上向きに転じており、同線(執筆時81.810円)が下値支持として機能するか否かが目先の焦点だ。これを下抜けるようだと年初来安値(81.495円)の更新と81円割れの可能性が高まる一方、この水準がサポートされれば85円目指して上値を試す展開になりやすい。(神田)

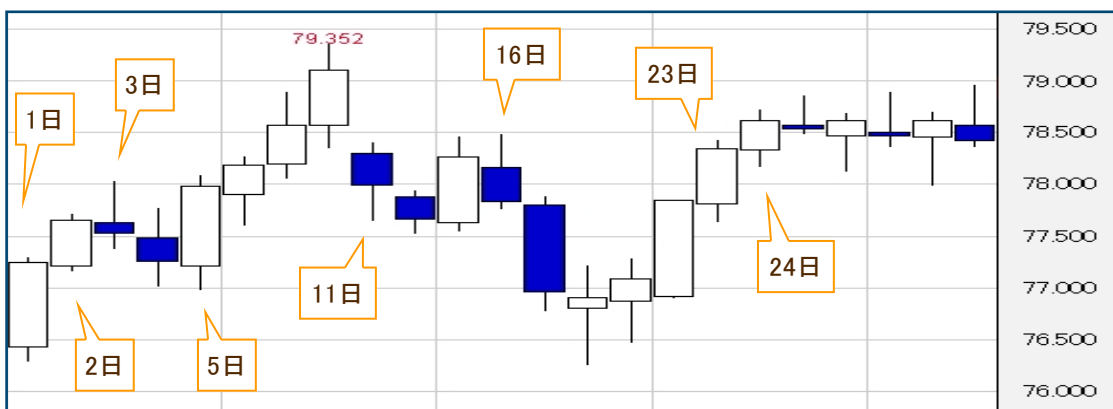
(予想レンジ: 80.000-85.000円)

## NZドル/円 5月の推移

NZD/JPY

5月のNZドル/円相場は76.274～79.352円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約2.5%の上昇（NZドル高・円安）となった。

前月末に北朝鮮がミサイルを発射した事を受けてリスク回避の円買いが先行する中で安く始まるも一時的となり、好調なNZ経済を背景とするNZの利上げ期待を受けて堅調に推移すると、10日に月の高値となる79.352円まで上昇した。その後はNZ準備銀行（RBNZ）のハト派的な声明や、ロシアゲートによるリスク回避の動きを受けて18日に月の安値となる76.274円まで下落するも、乳価上昇などを背景に持ち直した。



## 四本値

OPEN	76.440
HIGH	79.352
LOW	76.274
CLOSE	78.434

1日	前週末29日早朝に北朝鮮がミサイル発射実験を強行した事を受けて半島情勢をめぐる緊張感が高まる中、リスク回避の円買いが先行するも一時的。その後は米株が上昇し、VIX指数（恐怖指数）が約10年ぶりの水準まで低下する中で反発した。
2日	NZ乳業大手フォンテラが実施した乳製品入札で、GDT指数が前回比+3.6%となった。
3日	NZ1-3月期雇用統計は失業率が4.9%、雇用者数は前期比+1.2%、平均賃金は同+0.3%（予想：5.1%、+0.8%、+0.7%）であった。失業率の改善や雇用者増を受け、NZドル/円は一時78円台を回復した。
5日	RBNZが発表した今後2年間のインフレ期待は2.17%と、前回（1.92%）から上昇。ほぼ3年ぶり高水準となった。
11日	RBNZは政策金利の据え置き（1.75%）を決定。声明で「金利を相当な期間維持する方針」を示した。一部でインフレ率の上昇を背景にタカ派的な声明内容になるとの見方が浮上する中で中立スタンスが維持された事から、NZドル売りが優勢となった。ウィーラー総裁は会見で「依然多くの不確実性があり、それに応じた政策の調整が必要になる」「最近のNZドル下落は好ましく、その基調が維持されれば成長見通しの改善につながる」などと述べた。
16日	NZ乳業大手フォンテラが実施した乳製品入札で、GDT指数が前回比+3.2%となった事を受けてNZドルが買われるも一時的。その後はトランプ米大統領のロシア関連疑惑（ロシアゲート）を嫌気して株安が強まった影響を受けて円が全面高となる中で反落した。
23日	フォンテラが生産者に支払う乳価予想を引き上げる（1Kg当り6.00NZドル→6.15NZドル）事を発表。
24日	NZ4月貿易収支が5.78億NZドルの黒字（予想：2.67億NZドルの黒字）となり、NZドルがやや買われた。ただ、その後は格付け会社ムーディーズが中国の格付けを引き下げた（AA3→A1）事を嫌気して伸び悩む場面も見られた。

## NZD / JPY

## 日経平均

OPEN	19154.03
HIGH	19998.49
LOW	19144.62
CLOSE	19650.57

## NYダウ平均

OPEN	20962.73
HIGH	21112.32
LOW	20553.45
CLOSE	21008.65

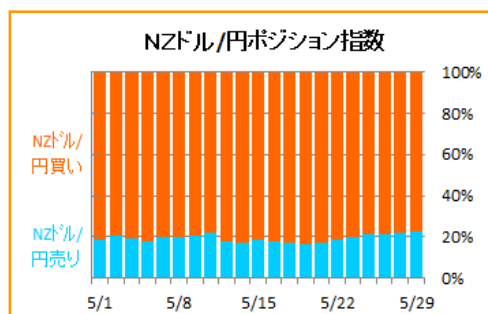
## 上海総合指数

OPEN	3147.228
HIGH	3154.781
LOW	3016.531
CLOSE	3117.178

## NZ10年債利回

OPEN	3.032%
HIGH	3.100%
LOW	2.776%
CLOSE	2.778%

## 5月のポジション動向



## 6月のNZの注目材料

- ・NZフォンテラ入札(6日、20日)
- ・1-3月期NZGDP(15日)
- ・5月NZ企業景況感(PMI、16日)
- ・RBNZオフィシャル・キャシュレート  
(22日)
- ・5月NZ貿易収支(27日)
- ・5月NZ住宅建設許可(30日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

## 6月の見通し

先月のNZドル/円は、RBNZのハト派的声明などを受けて下押しも一時的。直近のインフレ率が2011年以降始めてRBNZ目標(年1~3%)の中央値を上回った事や、乳価が上昇(フォンテラのGDT入札は5回連続で前回比プラス)している事などから、RBNZの次の一手は利上げとの見方が揺らがなかった事が大きい。こうした中、今月はフォンテラの入札結果や1-3月期GDPに注目したい。乳価上昇がGDPへの波及を確認できれば、RBNZの利上げ観測を絡めてNZドルが買われる可能性がある。前回5月の声明で中立姿勢を堅持した事から、声明がタカ派的内容となるだけでも十分にインパクトはありそうだ。

テクニカル面では、4月~5月の下落局面で週足の一目均衡表の雲上限付近で踏み止まった事や、その後転換線を回復した事などから、下押しは一服した様子である。こうした中で基準線(執筆時79.733円)を突破できれば、反発局面に入る可能性が高まりそうだ。その場合は1月に付けた今年高値(83.791円)まで主だった目標値が見当たらないため、3月高値(81.476円)が目処となろう。(川畑)

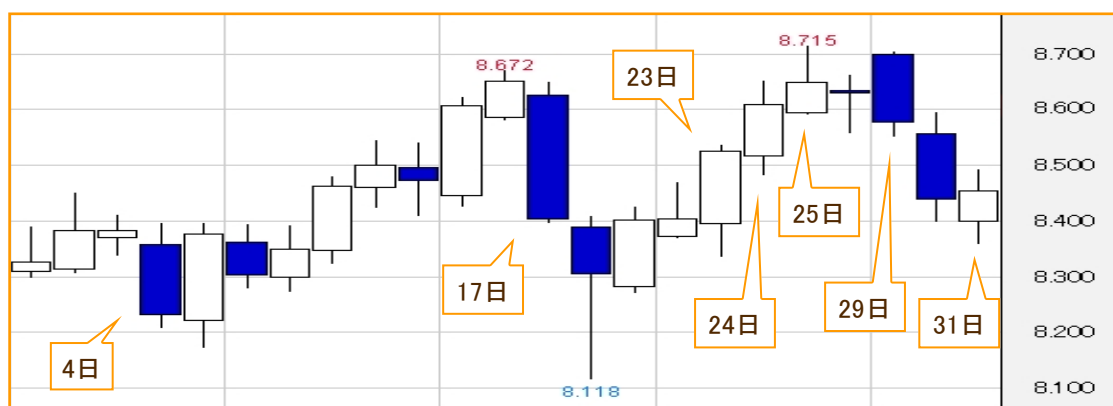
(予想レンジ: 77.000~81.500円)

ZAR/JPY

## ランド/円 5月の推移

5月のランド/円相場は8.118～8.715円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.5%の上昇(ランド高・円安)となった。

世界的な好景気を背景にじり高基調となるも、トランプ米大統領のロシア関連疑惑(ロシアゲート)を嫌気してリスク回避の動きが強まると、8.10円前後まで急落するなど、前半～中盤にかけてリスク志向に左右された。その後はズマ大統領の罷免観測からランド買いの反応を見せたほか、一部で利下げ観測があった25日の南ア準備銀行(SARB)理事会で利下げを主張する委員が前回3月に続いて1人に留まった事などから、25日に約2カ月ぶり高値となる8.715円まで再び上昇した。



## 四本値

OPEN	8.310
HIGH	8.715
LOW	8.118
CLOSE	8.456

4日	南ア5月PMIが50.3と前回(50.7)を下回った事や、米連邦公開市場委員会(FOMC)での雇用や景気についての楽観的な見通しを受けてドル買いが優勢となった(ドル買い・ランド売り)事から、ランド/円は軟調に推移した。
17日	南ア3月小売売上高は前月比+0.8%と予想(-1.0%)を上回ったが反応は限定的。その後、「トランプ米大統領が連邦捜査局(FBI)のコミー前長官に、辞任したプリン前大統領補佐官に対する捜査を中止するよう要請していた」と米メディアが一斉に報じた。ロシア関連疑惑(ロシアゲート)により減税策やインフラ投資などの政策が停滞するとのリスクや、大統領の弾劾懸念が浮上、株安が進む中で円が全面高となった。
23日	「南ア与党ANCが週末の会議でズマ大統領の除名を協議」との一部報道を受けてランドが上昇。その後ANC報道官がこの報道を否定した事からやや下押すも、米株の堅調推移やドル/円上昇の中で反発した。
24日	南ア4月消費者物価指数は前年比+5.3%(予想:+5.6%)と、15年12月以来約1年半ぶりにSARBのインフレ目標(年3～6%)の中に収まった。これにより、一部でSARBの利下げ観測が浮上した。
25日	SARBは政策金利の据え置き(7.00%)を決定。決定は5対1(0.25%利下げ主張)の賛成多数であった。また、経済成長見通しを2017年が1.0%、18年は1.5%、19年は1.7%(前回:1.2%、1.7%、2.0%)としたほか、インフレ見通しは17年が5.7%、18年は5.3%、19年は5.5%(同:5.9%、5.4%、5.5%)とした。クガニャゴ総裁は「長期的な見通しは目標レンジの上限に『居心地が悪くなるくらい近い』」「インフレ率が予想外に下がり、見通しが安定して目標レンジ内に収まるようであれば利下げが可能になる」などと発言した。
29日	週末28日の与党アフリカ民族会議(ANC)幹部会議で、ズマ大統領の不信任投票を行わないことが決まった。週明けのランド/円は高く始まるも一時的となり、その後は反落した。
31日	南ア4月貿易収支は51億ランドの黒字(予想:74億ランドの黒字)であった。

## 日経平均

OPEN	19154.03
HIGH	19998.49
LOW	19144.62
CLOSE	19650.57

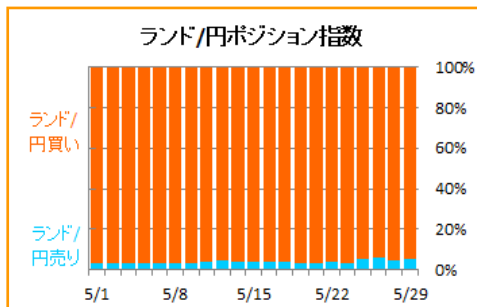
## NYダウ平均

OPEN	20962.73
HIGH	21112.32
LOW	20553.45
CLOSE	21008.65

## N Y 金

OPEN	1269.60
HIGH	1276.80
LOW	1214.30
CLOSE	1275.40

## 5月のポジション動向



## 6月の南アフリカの注目材料

- ・1-3月期南ア失業率(1日)
- ・5月南ア貿易収支(30日)
- ・5月南アPMI(5日)
- ・1-3月期南アGDP(6日)
- ・4月南ア小売売上高(14日)
- ・1-3月期南ア経常収支(20日)
- ・5月南ア消費者物価指数(21日)
- ・5月南ア生産者物価指数(29日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

## 6月の見通し

今月は南アフリカで金融政策の発表が予定されていないが、重要な経済指標の発表が相次いで予定されている。1日の1-3月期失業率は27.7%と14年ぶりの高水準を記録している。南ア経済の低迷が続く中、先月にクガニャゴ総裁がインフレ率が低下すれば利下げの余地があるとの見方を示している。次回7月の会合を読む手がかりとして、今月は1-3月期GDPや5月消費者物価指数に注目したい。経済低迷とインフレ率の低下が明らかとなれば、利下げ観測の再浮上によりランドが売られる可能性がある。

また、ズマ大統領の進退問題も引き続き、ランド相場の変動要因となろう。ゴードン財務相の更迭(3月)～格付け会社S&Pやムーディーズの格下げといった一連の事件の原因となる人物であるため、罷免観測が高まればランド買い材料で反応しやすい。もっとも、与党アフリカ民族会議(ANC)内で支持基盤は堅く、12月のANC総選挙まで続投するとの見方も根強い事から、そのハードルは高そうだ。(川畑)

(予想レンジ: 8.100~9.000円)